

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100050		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	グループホーム そよ風(東)		
所在地	岐阜県可児市矢戸68番		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [介護サービス情報が公表されるまでは基本情報票をご覧ください](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地より少し離れた、季節の移り変わりが感じられる静かな環境の中に、本年2月開所しました。同じ敷地内に小規模多機能があり、隣接して小規模特養も4月開所しました。職員や利用者様の交流、イベントの共同開催など連携して相互に協力合っています。母体が、医療施設であるため、利用者様の体調に異変を感じたり、急変時など、素早い連携をとり、適切な処置を受けることができます。その中で、私達は、利用者様が、住み慣れた地域の中で穏やかにほほえみのある暮らしが出来るように、日々、利用者様に寄り添い、利用者様の思いに気づき、考えて、職員同士情報を共有し、より良いケアが出来るように、努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、今年2月に開設し、同じ敷地内に小規模多機能型居宅介護事業所と小規模特別養護老人ホームが隣接している。利用者間の交流や行事は、法人施設で共同開催し、地域の人達にも参加呼び掛け、協力を得ながら盛大に行っている。利用者は、住み慣れた地域の中で、適切な医療と満足のいく介護を受け、健康的で安心な生活を送っている。管理者・職員は、利用者の思いに寄り添い、細やかな心遣いを大切に、穏やかに笑顔の絶えない暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(東)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい位置に掲示し、ケア会議などで職員が理解出来るように説明している。利用者様の視点にたったケアがなされているか、常に確認するようにしている。	「寄り添う介護」「思いに築く介護」「考える介護」を理念とし、開設から間もないホームのために、ケア会議で理解できるように説明している。介護計画の見直しや作成時に理念を共有し、日々のケアにおいて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の福祉体験を受け入れたり、夏祭り・秋祭りを開催して、地域の方が、気軽に訪れて下さる施設作りを目指している。また、買い物と一緒に出掛けたり、散歩時、近くの農家の方たちと挨拶を交わすなどしている。	自治会に加入し、ホームの行事等を回覧板で知らせている。散歩時に挨拶をしたり、乗り合いバスで、地域の商店へ、買い物に出かけている。近所に高齢化率の高い住宅地があり、事業所を地域の資源として、利用・活用してもらいながら、相互の協力関係を模索している。	地域の人たちが(子どもを含む)気楽に訪れてもらえるような取り組みに期待したい。さらに、高齢者を地域で支え合う関係づくりにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉体験・職場体験(社協)の受け入れや、夏祭り・秋祭りを通じて、地域の方と交流を図り、グループホーム・認知症の人への理解を深めて頂けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、小規模多機能と合同で運営推進会議を開催している。活動報告を行い、地元のお花見場所を教えて頂いたり、もっと積極的に外出時にボランティアさんを活用してもよいのではないかなどという助言、率直なご意見を頂き、改善に努めている。	隔月に、隣接の施設と合同で、会議を開催している。利用者・家族・行政・地域関係者・看護師等の参加で、活動報告等を基に話し合っている。ボランティアによる買い物への同行支援等の提案があり、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者・地域包括職員には、運営推進会議に毎回参加して頂き、施設の取り組みを報告している。また、写真のいったそよ風だよりを時々お届けし、利用者の姿をお伝えしている。必要に応じて、意見や助言を頂いている。	市の担当者とは、毎月の事業報告や「そよかぜ便り」を届けるなど、協力関係を築いている。家族との連絡が困難な事例の情報提供等の相談や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ケア会議などで研修し、職員の理解に努めている。安全面に配慮して、利用者様に寄り添い、見守りをしていく中で、身体拘束をしないケアに努めている。	ケア会議や、内部研修で、正確な知識の伝達と理解に努め、身体拘束をしないケアを実践している。安全上、やむを得ない場合は、家族や関係者と十分話し合うように取り決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議において、マニュアルを作成して高齢者虐待について研修を行っている。利用者様の、心身の状況・ケアの状況について、職員は常に注意している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年次計画の中で、ケア会議にて、権利擁護に関する研修を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、利用者・家族に契約内容や、ケアに関する事業所の取り組みや理念を説明し、施設として出来ることも理解・納得して頂いている。また改定時は改定内容など細かく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族と職員とのコミュニケーションを大切にして、家族会や面会時に、意見・要望をお聞きするように努めている。	家族に訪問や行事の時、職員に意見や要望を気軽に伝えられる雰囲気づくりに努めている。職員に名札をつけてほしいとの要望を受け、介護の邪魔にならないように、名札を付けるように改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や日常の勤務の中で、職員が気になることや、意見・要望があれば、代表者や管理者が個別に話し合う機会を設けている。	代表者と管理者を中心に、定期的に職員会議を開き、意見を交換している。職員の勤務配置やケアの事例検討、職員の技量を高める学習の進め方等を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はケア会議にも参加し、今まで培ってきた施設運営を反映できるよう現場に顔を出したり、情報収集として職員に個別に対応できるように努めている。また、キャリアアップのための研修参加も促すなど、職員に働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自、勤務時間内に、法人内外の研修に参加する機会を設けられている。職員はお互いにスキルアップ出来るように、ケア会議で研修報告を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・キャリアパス支援事業などを活用して、経験や、役職に応じた事例検討・技術・法令などを勉強する機会を持ち、交流を図っている。また、レクリエーション・行事などでも交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が新しい生活に早く馴染めるように、関連機関などから情報収集するとともに、事前面談などで本人の言葉に出せない思いが引き出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時には、雰囲気を見て頂きながら本人・ご家族の不安なことなどを率直に話して頂けるようゆっくり聞くことを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、利用者様・ご家族の思いを取り入れた短期プランを作成導入して、安心して生活して頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事・洗濯干しなど利用者様に出来ることは役割分担をして手伝って頂き、利用者様から野菜作りを教えるなど良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・運営推進会議への参加、受診・美容院への付き添いなどをお願いする事もあり、面会時には日々の様子をお伝えしている。利用者様とご家族のふれ合いを大切に共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクとしての個別外出や、買い物、銀行、市役所などの用事など利用者の馴染の場所には、一緒に出掛けて頂き、楽しんで頂いている。友人・親戚・ご近所の方などの面会・隣接の施設間の交流もあり、関係が途切れないよう支援に努めている。	友人・近所の知人・民生委員の訪問があり、ゆっくり話し合う場を提供している。また、併設施設の利用者とも馴染みの関係を築いている。職員が買い物や銀行、役所に同行し、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者様の心身の状況を把握し、一人一人が楽しく過ごせるような声掛け・会話に配慮している。食事や、レク、くつろぎの時間などに利用者様同士が馴染みの関係を作る支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じてご本人・ご家族の経過をフォローできるよう関係者と連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は散歩・入浴時・就寝前などに、1対1でゆっくり話をする機会を設け、自分の思いを言葉に出せない利用者様には、趣味や、子供の頃のお話など馴染みの話題を提供し、思いを表情などから把握するように努めている。また、情報は、記録に残しケアに活かすように努めている	職員の五感を活かして、言葉や表情、しぐさから思いや意向を把握している。把握した思いや、知り得た情報を職員間で共有し、自分らしい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用施設・担当ケアマネジャーからの情報収集や、利用者様・ご家族との日々の会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・介護記録などへの記入により、1人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の心身状態に応じて、利用者様・ご家族の思いをお聞きして、ケア会議などで職員同士話し合い、臨機応変にケアプランを見直し作成している。	担当職員が利用者の介護計画案を作成し、本人・家族と話し合い、介護計画を作成している。利用者の心身状態に応じ、ケア会議で検証と見直しを行いながら、現状に即した計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートなどを活用し、日々の様子やケアでの気づきなどの情報を職員が共有し、ケアの工夫や実践につなげ、ケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の状況に応じて、職員が個別の必要物品の購入をしたり、食事摂取量の少ない場合には、個別に牛乳・フルーツ缶など提供するなど、その時々柔軟な支援をしている。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントの際は、公民館などにポスターの掲示・ボランティア募集の掲示・自治会にチラシを回覧して頂いたりして、地域資源を活用し、地域の方にも支援して頂けるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や、利用者様・ご家族の希望される所に受診して頂いている。適切な医療が受けられるように、かかりつけ医と連携している。	家族の希望により、かかりつけ医を選択してもらっている。個々の、かかりつけ医と連携を取り、往診を受けることができる。法人の協力医も、必要に応じ、往診の体制を取り、安心できる医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護により、体調の変化には早い段階で、医療関係者と連携が取れるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人全体として、入院設備のある病院とは日頃より相談員との関係作りをしている。入退院時にはご家族等の了承を得て、こまめな連携が取れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、終末期の看取りについて本人・ご家族の思いをお聞きして、事業所で出来ることなどを説明している。	重度化や終末期について、医療法人の利点を活かし、支援体制を整えてている。利用者と家族の想いを聞き、ホームでできる事を説明し、合意している。開設から間もないため、実践に向けた具体的な指針づくりが必要である。	家族や関係者との段階的な話し合い、目的・判断基準・基本姿勢などの明記、職員教育などの取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応についてのマニュアルを作成して、ケア会議などで、緊急時の救命方法などを勉強している。緊急時の搬出方法なども避難訓練の際に、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の避難訓練と、自主訓練を実施して、日勤帯と夜間帯の二つの想定で行っている。3施設が隣接しているため、非常時の協力体制を取り入れている。	消防署の指導のもと、年2回の避難訓練と夜間を想定した自主訓練を実施している。併施設との防災組織を整え、備蓄も確保している。有事の際には、事業所が地域の避難場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議などで、介護保険の理念などを勉強し、プライバシー保護についても研修を行っている。利用者様の気持ちを大切に、トイレ誘導、食事時、口腔ケア時など、誇りやプライバシーを損ねないようなさりげない言葉かけや対応をしている。	内部研修でプライバシーや人格の尊重について学び、利用者の気持ちに寄り添い、さりげなく言葉をかけている。介助の場面では、下からの目線で話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりに合わせた声掛けをして、言葉・しぐさ・表情などからその方の思いや希望に気づくことが出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状態に応じて、さりげない声掛けをしながら、本人の意向を把握し、無理のない行動を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも協力して頂き、馴染みの美容院に出掛けて頂いたり、その人らしい季節にあったおしゃれを楽しんで頂いたりしている。時々、マニキュアなどのおしゃれも楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・片付けなど、一人ひとり、出来ることを職員と共に一緒に行っている。季節の行事や、お誕生日などその時々にあった、おはぎや団子、、芋きんとん、五平餅などのおやつ作りも、利用者様と共に楽しみながら行っている。	盛り付け、配膳、片付けなどを、利用者もできる手伝いを自発的に担っている。季節行事や誕生日には、赤飯や五目御飯、チラシ寿司等を作り、利用者も楽しみながら調理に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量・体重の増減などに一人ひとりの状態に注意している。個別に、摂取しやすい飲み物・食欲増進のためのふりかけなど工夫している。適宜、水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。自立度に応じて、義歯の着脱・洗浄・口腔内の衛生管理を支援している。		

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用し、排泄パターンの把握に努めている。声掛けや、見守りにてトイレでの排泄を支援している。夜間もトイレ誘導・見守りを行い、排泄の失敗を減らし自立を支援している。	排泄チェック表を活用し、個人の排泄パターンに応じた誘導や声かけを行い、排泄の自立に繋げている。排泄の成功体験を重ね、トイレでの排泄が、心地よい習慣となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や、散歩など体を毎日動かして頂くように声掛けしている。スムーズな排便のリズムを作るように、その方に応じて牛乳を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態を考慮しながら、その方の好みの時間・順番に入浴して頂くよう配慮している。入浴時には、利用者様がぐつろいで入って頂けるよう支援している。	ゆったりとくつろげる檜の浴槽で、1対1の介助を行い、時には、本音や想いを把握している。体調に合わせて、入る順序や時間に配慮している。重度者対応の特別浴槽も設備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるように、日中は出来る限り活動的に楽しく過ごして頂くよう支援している。一人ひとりの心身状態を把握して、日中、居室での休息を促す場合もあり、個々に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容・説明については、職員が見やすいようにファイルして、情報の共有を行っている。薬の変更・追加・臨時薬などについては、その都度、申し送りを行っている。配薬担当者を決め、手渡しをして服薬を確認しチェックのサインをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行い、台所仕事・歌レク・ゲーム・編み物などをして頂き、気分転換などの支援をしている。食事の挨拶や、食器洗い、食材拭きなどその人らしさを発揮して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調に配慮しながら、敷地内の畑まで、散歩に声掛けしている。個別外出や、家族会としてご家族にも市外まで外出支援を協力して頂いている。	個別支援で、買い物・散歩・外食等の外出を行っている。家族会を外出行事に合わせ開催し、大田宿や文化の森等に出かけている。ボランティアの協力を得て、花フェスタ公園へ外出することもある。	

岐阜県 グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をカバンの中に入れておられることで安心されている利用者様もおられ、個々の力に応じて支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中ががき・年賀状をご家族に自筆で出して頂くなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーの飾りや壁飾りを、利用者様と共に折り紙などで作成し展示して、季節を楽しんで頂いている。ソファや、畳スペースなど思い思いの場所にてゆったりとくつろいで頂いている。	共用の空間には、季節感のある折り紙の作品や、壁飾りを展示している。居間にある畳のコーナーやソファで、思いのまま寛げるように工夫をしている。適度な室温と、窓から柔らかい光が注ぎ、居心地のよい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士ソファで談笑されたり、好きな場所で日向ぼっこをされたり、新聞や広告を読まれたり、その人に会った居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、ペットの写真を飾ったり、お気に入りの洋服・帽子などクローゼットの手に届くところに置いたり、利用者様が、居心地良く穏やかに過ごせるように、ご家族と共に工夫している。	タンスやカーペット、位牌等馴染みの物や、お気に入りの帽子・洋服、愛用していた鏡・家具等が持ち込まれ、家族とともに配置している。居心地よく過ごせるよう工夫し、温かい雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの心身状態に気を配り、自立した生活が出来るよう見守り、建物内部に転倒のリスクなどがないか動線を常に考慮するように努めている。		